

一般質問発言通告要旨

通告者 5番 門脇晃幸

1 ウェルビーイングとスマートシュリンクについて

- (1) 市長はスマートシュリンクについてどのように捉えているか伺う。
- (2) 国の人口減少対策が減少をいかに食い止めるかの抑制策から、どう対応するかの適応対策に軸足を移し、政策に取り入れる動きが広がっている。仙北市の施策の比重はどのようになっているか。
- (3) 仙北市は人口減少を抑制する対策に予算を投じるのではなく、人口が減っても地域住民のウェルビーイングが向上する政策への転換をもっと進めるべきと考えるがどうか。
- (4) 市民サービスを確保し、最小の経費で最大の効果を得られるよう、事業の優先順位付けによる取捨選択や抜本的な見直しを徹底しなければならないと考えるがどうか。
- (5) 施策の取捨選択には基準を数値化しそれに達しなかった施策は廃止とするルールを設定しなければなかなか実行できないのではないか。ルール設定を必要と考えるがどうか。
- (6) 令和5年2月提案の議案第16号・議案第26号が否決された。いずれも子育て支援を実現するための財源確保（敬老祝金条例の一部改正・消防団退職時家族慰労金支給条例廃止）が目的であった。再度提案する予定はないか伺う。

一般質問発言通告要旨

通告者 3番 中村和彦

1 観光振興について

- (1) 新たな財源確保により、観光振興のために宿泊税は必要な財源であると思う。今後、どのように進めていくのか考え方を伺う。
- (2) 昨年は熊が頻繁に出没して、観光業を営む業者等が打撃を受けて、収入が大幅に減少した。さまざまな方策をとって、どのように対応するかが問われていると思う。具体的な取り組みを伺う。
- (3) 仙北市最大のイベントである桜まつりが始まる。今年、さらなる誘客のために、新たな企画等があれば伺いたい。
- (4) 以前にも数回一般質問したが、今年でユネスコ登録10周年を迎える角館祭りのやま行事について、核となる仮称お祭り会館の建設について、今後どのような方向で進めていくのか伺う。

2 高齢者福祉の充実について

- (1) 子育て世代等への助成などは、かなり充実してきていると思う。その反面、高齢者世帯等への助成等が進んでいないように感じている。同じ市民であれば、等しく税の恩恵に預かるべきと考えるが、当局の考えを伺う。
- (2) 特に、お盆や正月に高齢者の皆様に、楽しく過ごしていただくために、年2回程度の買い物券の補助等をしてみてはどうか伺う。

3 令和8年度の当初予算について

- (1) 予算編成にあたり、病院事業において、先の全員協議会にて給与削減についての報告があり、職員に不安等が広がっていると聞く。今後どのように進めていくのか伺う。
- (2) 以前にも質問したが、今は多くのふるさと納税により、予算編成においても本当に助かっていると思う。このままいつまでも順調に推移すればいいが、減少した場合の財源の確保をどのようにするのか伺う。

一般質問発言通告要旨

通告者 8番 熊谷 一夫

1 仙北市病院事業経営健全化計画案について

先月の議員全員協議会で示された仙北市病院事業経営健全化計画書案によると、令和6年度決算で赤字額約8億900万円（田沢湖病院1億8,900万円、角館総合病院6億2,000万円）に上り、一時借入金残高も過去最高の約15億円。さらに、令和7年度決算見込みでは一時借入金が増え、23億円になる見込みとの報告であった。新聞、マスコミ等の報道を受け、心配した市民の方からの厳しい意見もいただいた。これを踏まえて伺う。

- (1) 1点目は、再編スケジュールでは今後、仙北市の医療ビジョンなどを説明するタウンミーティング等を開催し市民の合意を図る。としているが、市民にとっては、自分のかかりつけの診療科目や医師が残るか否かが重大問題であり、早めにそうしたスケジュール、ビジョンを市民に分かりやすく示してほしいとの声が多かった。説明会はいつから行うのか。
- (2) 2点目は、田沢湖病院が統合するとすれば、診療所として残るのか、医師・看護師は何名くらいになるのか、診療科は内科だけなのか等、現在わかる範囲で示してほしい。

病床廃止とのことだが、市外に入院していた家族が紹介状をもらってようやく田沢湖病院に入院できたのに、病床がなくなるとのことでは驚いている。どうなるのかとの声がある。
- (3) 3点目は、田沢湖地区には多くの観光客が宿泊しているし、スポーツ合宿や各種大会も多い。町に病院がなくなると、観光客や大会等ができなくなる。そうなることも考慮したうえでの再編なのか伺う。
- (4) 4点目は、病院事業債を令和8年に10億円、9年に5億円、資金不足を補う手段としての発行とのことだが、病院建設の償還も残っているのにさらに病院事業債という借金を重ねる。この返済する財源は結局、一般財源ということにならないか伺う。
- (5) 5点目は、再編統合後の収益確保対策等についてだが、収益増・コスト削減・外来収益の増収等を挙げているが、年々急速に人口減少していく中で、患者数の増収が見込めるとはどうしても思えない。市民の方たちが公立病院から離れて行っている気がする。さらに、継続して収支改善（対R6年決算比5～6億円）に取り組むとしているが不思議でならない。昨年の決算の折も収支改善に取り組むと言いながら結果、さらに赤字が増えた。短期間で収支改善が一気に進むのか。この計画における数字の信頼性は大丈夫なのか伺う。
- (6) 6点目は、“プロジェクトX”で紹介された財政破綻の危機を救った島根県海士町へ研修で訪れた時に、故山内町長、吉元総務課長（当時）にもお会いした。町がなくなるとなった時に、真っ先に町長が「俺の給料を半分にしてくれ」と申し出て、全管理職から一般職員組合、町民も「補助金カットや寄付金で助けよう」と全町で身を切る

改革を行い、「当時は全国で最低の給与水準だった」と吉元課長は述懐していた。公共事業に代わる産業の急速冷凍設備5億円をかけ水産物が黒字化されるまで約5年かかったとのこと。海士町民は当時を振り返り「あの時は役場の人の本気度が見えてきた」と語っている。当局の病院事業経営健全化における本気度について伺う。

2 伝統的建造物群指定 50 周年記念をシティプロモーションのチャンスに！

今年は角館の武家屋敷が伝統的建造物群（略して伝建群という）指定となって 50 周年の節目の年である。伝建群指定の市町村の首長や関係者の方達が全国から集まる絶好の機会であり、次の開催 100 周年の時には私たちはこの世にいない。“みちのくの小京都角館”の歴史・文化と共に仙北市を売り込むシティプロモーションのまさに千載一遇のチャンスである。この時こそ J R や旅行業者などへ積極的にアピールして国内外の方たちに、角館の武家屋敷とともに、仙北市の歴史・文化を育てている文学館・伝承館・美術館を大々的に発信、アピールして大きなうねりを創り、本市の観光・文化に活気を呼び込んでほしい。そこで伺う。

- (1) 1 点目は、伝建群指定 50 周年のシンポジウム等を行うようだが、イベントや具体的取り組みについての計画を教えてください。
- (2) 2 点目は、最近では歴史好きな女子の歴女ツアーや城巡りツアーも好評のようである。本市には新潮社記念文学館、樺細工伝承館、平福美術館もある。こういう時にこそ、三館共通割引券などを発行して観光と文化を融合させ、J R や旅行ツアー業者、観光協会、DMO 等へ積極的に営業をかけて集客力をアップし、多くの観光客や歴史好きな方たちに、角館の武家屋敷と伝建群のたたずまい、歴史と文化の香りを届けてほしいと考えるがどうか。
- (3) 3 点目は、外国人旅行者（インバウンド）は今年度全国で 4,200 万人を超えたが、秋田県田沢湖・角館の認知度は 11.3% と極めて低い。認知度を上げて観光交流人口を増やし、経済効果を上げることが大事である。今回のイベントが田沢湖・角館武家屋敷を知ってもらう起点にさせていただきたいが所感を伺う。
- (4) 4 点目は、伝建群 50 周年記念魅力発信事業として、しっかり宣伝費等を予算化し、情熱を込めて国内外に発信し、訴えていくべきと思う。本市の観光・歴史・文化・自然のコンテンツをこの機会を通じて余すところなくアピールして盛り上げていくことを提案するが当局の見解を伺う。

3 八潮市の下水道事故を教訓として

2025 年 1 月に埼玉県八潮市で発生した道路陥没事故は日本のインフラが抱える弱点をあらわにした。地下約 10m に敷設された下水道管が腐食により破損。時間をかけて土砂が流入し空洞が大きくなり道路陥没につながった。この事故で運転手 1 名が死亡。現在も復旧工事が続き周囲の臭気や地盤沈下、地割れ現象などが起きており工事完成には 6～7 年を要するとしている。この事故を教訓に、本市の下水道政策とインフラについて伺う。

- (1) 1 点目は、人口減少・財政縮減・老朽化の三重苦が現実となっているが、本市における現在の下水道の設置年数とその規模、管路の長さや老朽化対策は大丈夫か。
- (2) 2 点目は、直近の下水道管の点検と管理、道路陥没や硫化水素発生事故に起因するような要素はあるのか、あるとすれば何% くらいの確率であるのか。

- (3) 3点目は、更新コストが上水道の3～4倍という下水道では、延命ありきの発想では財政が持たない。どの管轄を残しどの管路を縮退・撤去し、分散処理へ切り替えるかなど「インフラじまい」を考える自治体が多くなってきた。これは、老朽化リスクの低減、財政負担の圧縮、地域の衛生・防災機能の確保、水循環の再生という4つの目的を同時に達成するためのフレームである。本市における下水道政策と「インフラじまい」への見解を伺う。
- (4) 4点目は、急速に人口規模が縮小しているにも関わらず、整備した下水道インフラを同じ形のまま維持し続けるには無理があると思う。今後、人口減少と財政縮小という構造的制約を踏まえて本市の下水道事業が黒字転換する方策と取り組みについて伺う。

一般質問発言通告要旨

通告者 11番 荒木田 俊 一

- 1 仙北市における生保内、田沢地区の位置づけ、役割はどう考えているのか。
 - (1) 産業、経済の立ち位置とこれからのあり方。
 - (2) 市の施設（学校、病院、体育館、市民会館等）の配置と維持とその後のあり方。
 - (3) 生活居住地域としての整備のあり方。
 - (4) 観光地としての環境整備のあり方。

- 2 住民からの要望や陳情の対応について。
 - (1) 旧秋木跡地の活用について。
 - (2) 令和3年に議会で採択された「総合体育館建設に関する請願」
 - (3) だしの湯の活用について。

- 3 市有財産、施設等の管理、活用について。
 - (1) 新しい物はできて、空いたものの活用が検討されず残っていく現状の打開策は。

- 4 課税の適正化
 - (1) 市民に不利益を生じさせている現状を速やかに適正化するべきではないのか。

一般質問発言通告要旨

通告者 2番 小田島 広 仁

1 仙北市民浴場「東風の湯」について

10月から休館が続いている状況で、生保内在住の方々を始め、利用できなくなっている市民の方々から再開を望む声が大きくなってきている。そこで、下記について伺う。

- (1) 休館の原因は源泉からの湯量が減少していること、源泉の温度も低下しているとのことで、試験的に現在の状態で浴槽に湯張りしたところ、浴槽内の湯温が最大35度前後としかならないとの報告だが、現状はどのような状態か。今後はどのようにしていく予定なのか。
- (2) 回数券を購入されている方々もおり、クリオンや花葉館でも利用できるが、休館中に2施設を利用された方はどれくらいいるのか。
- (3) 東風の湯を利用されている方は地元のご高齢の方々も多く、遠い施設まで行くことが厳しい方も多いと推測される。地元にも日帰り温泉を利用できる民間施設があるが、入浴料は東風の湯より高い状況である。甘い考えかもしれないが、割引入浴等のご協力をお願いできないかとも思うが、そのような考えはないか。
- (4) 長期の休館となっているが、指定管理者である「おもてなし仙北」との指定管理契約で管理料等の変更はないのか。

2 病院事業経営健全化計画等について

12月の一般質問で病院経営について質問をさせていただいた。1月26日開催の議員全員協議会で計画(案)について説明があったが、正直なところ、12月の答弁からは驚きの内容であった。本計画は今年度中に提出しなければならないことは理解しているが、内容も不明確な部分が多すぎて、現状の内容では不安に思っている市民も多く、下記について伺う。

- (1) 『議案第50号「仙北市病院事業経営健全化計画を別紙のとおり策定することについて」議決を求める。』とのことだが、計画内容も含めてということなのか。本議案が可決されれば基本的には計画通りで進め、来年度開催予定の住民説明会での意見等で内容を変更する可能性はないのか。
- (2) 田沢湖病院について『個別外部監査でも「収益的には診療所形態とするのが経営上望ましい」との指摘があった。これらを踏まえ、田沢湖病院の入院病床を休止する。』とあるが廃止ではなく休止なのか。休止という言葉を使うということは病院として再開することもあり得るのか。また、入院病床を休止した場合、外来の診療科目はどのようなになるのか。
- (3) 14ページの再編統合後に取り組む収益確保策等の中のコスト削減で、再編統合に係る職員の適正配置による人件費の縮減で、年間削減額が令和10年度39,100千円となっているが、具体的な内容と削減額の算出方法はどのようなものか。
- (4) 16ページの計画期間中に取り組むコスト削減策の中で、令和7年度、職員の適正配

置・市長部局への配置換えによる削減で24,000千円、再任用・会計年度任用職員の削減・不補充による削減で5,400千円を計上しているが、具体的手法と配置換え人数、削減人数と削減見込み金額はどのようになっているのか。

- (5) 第3次仙北市総合計画では2025年(令和7年)度末の角館総合病院医師数が19人、2029年(令和11年)度末の統合病院医師数が19人で変わらず、2025年(令和7年)度末の角館総合病院看護師数が138人、2029年(令和11年)度末の統合病院看護師数が134人で4人減となっている。2025年(令和7年)度末の田沢湖病院医師数が7人、看護師数が37人となっているが、田沢湖病院の2029年(令和11年)度末の人数はどのようになる予定なのか。
- (6) 令和8年度からは(4)に加え給与費の抑制も加わっているが、既に職員組合等との交渉は始まっているのか。また、削減額は令和7年度に対して削減する金額なのか。令和7年度の両病院の職員数、会計年度任用職員数に対し令和10年度の統合病院、田沢湖病院の人数はどのようになるのか。
- (7) 医療MaaSの運行範囲を拡大することだが、今年度の医療MaaSでの診察スケジュール、診察日数、診察人数はどうなっているか。また、西木地区、生保内地区での診察日程はどのように考えているのか。
- (8) 田沢湖病院の名誉院長である佐々木先生からのメッセージが院内に掲示されている。ご本人とお話しましたが、文面から無念さを私は感じた。退職までの経緯について伺う。また、本計画にも「現在の医師数を確保」等の記載があり、後任の医師は確保されているのか。佐々木先生は田沢湖病院に本当に尽くされた方であり、一人の医師として残ってもらえるべきではないか。本件が引き金となり、退職を検討されている他の医師もいると聞いているが、医師の確保が厳しいとの心配はないのか。

3 ふるさと納税について

今年度もたくさんの方々からご支援を頂戴している。これも本事業へ取り組んでいる職員、返礼品に関わっている企業、関係される皆様のご尽力のおかげであり、本当に感謝している。昨年末に仙北市出身の友人とふるさと納税について話す機会があり、考えさせられることもあった。その話を含め下記について伺う。

- (1) 「ふるさと納税の使い道」として①自治体におまかせ②高齢者が安心して暮らすための事業③未来を担う子どもたちを育む事業④ふるさとの自然と歴史・文化を守る事業⑤観光を軸とした交流のまちづくり事業⑥田沢湖再生クニマス里帰りプロジェクト事業が設定されており、圧倒的に「自治体におまかせ」を選択されている方が多くなっているが、見直しや追加を検討したことがあるか。
- (2) 市としては「自治体におまかせ」が一番使いやすく、便利であることは間違いないと思う。しかし、特定した事業に使ってほしいと考えても選択肢が少なく、具体性に欠けているため、考えと近い事業を選択しても的外れの事業に使われることもあると考える。友人は故郷である田沢湖の環境保全にあってほしいとの考えで④か⑤で迷ったとのことだった。例えば「田沢湖の自然整備」、「角館祭りのやま行事」、「上桧木内の紙風船上げ」等の具体的な使い道を増やすことはできないか。
- (3) 使い道に「その他」として、ご希望に添えない場合もございます等の言葉を添えて、自由記入欄等を設けることはできないか。

4 戸別受信機について

12月の一般質問時に防災無線の復活についてお聞きしたが、運用は検討していないとの答弁を頂戴した。しかし、先日の有志で実施した市民との意見交換会でも復活を希望する声も多く、ラインを使えない、スマートフォンを持っていないという方もいらっしゃる現状である。やはり現状では戸別受信機の貸与を積極的に進めるしか対応策はないと考えるが、下記について伺う。

- (1) 期待を含めお聞きするが、防災無線のような形で情報を発信できる、戸別受信機以外の対応ができないか。
- (2) 戸別受信機についての貸出条件の緩和については、年明けの在庫を確認後、幅広く貸与させていただくとの答弁だった。現状の在庫数と条件緩和の内容についてどのようなになっているのか。
- (3) 技術的にはチャイムを流すことは可能であり、検討するとのことであったが、進捗状況はどのようなになっているのか。

一般質問発言通告要旨

通告者 12番 小林 幸悦

1 小規模修繕等契約の上限見直しについて

この制度は市内に事業所を置く小規模事業者で資格要件が整わず、入札参加資格申請が困難な方を対象に市が発注する50万円未満の修繕などの工事を行う際に、優先的に見積もり参加依頼をする制度と認識している。10年ほど前は上限30万円だったが、その後現在の50万円になった経緯がある。昨今の物価高、人件費の高騰により50万円の工事では発注する側も考えていると思うが、利益を上げるのがなかなか厳しいとの声も聞こえてくることから上限額をもう少し上げることが出来ないのか、また、現在何人の方がこの制度を登録しているのか伺う。

2 カーボンニュートラル宣言に向けた仙北市の取り組みについて

国による2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロとするカーボンニュートラル宣言を受け、全国で宣言した自治体数は令和2年から急速に増加し、令和7年12月26日現在で1,196自治体が宣言しているようだ。全国の地方公共団体の6割以上が参画し、人口ベースでは約99%をカバーする潮流になっているとのことである。秋田県は12の自治体が宣言している、まだ宣言していない自治体でも取り組みはしている。仙北市でも取り組みはしているようだが、いつ頃を目途に宣言するのか考えがあれば伺う。

3 市政運営について

今、定例会で議案が可決すると田口市政も本格的に動き出すことになる。10月の選挙後、市長の二期目の意気込みについての質問や政策方針では早急に取り組まなければならない問題や、確実に進めていかなければならない政策等、多くの課題が挙げられている。聞いていてこれだけのことを二期目ですべて実現するのはかなり大変だと思うが、優秀な職員も沢山いることから課題はクリアしていくでしょうが、あまり無理をしないで、事を成し遂げた際、達成感が実感できれば次なる課題に取り組むモチベーションアップに繋がることになると思うがいかがか。

民間の人口戦略会議では人口減少と消滅可能性と題して2020年から2050年の30年間で若年女性人口が50%以上減少するとの予想、これによる消滅可能性の自治体の増加、地域コミュニティの機能低下、インフラの老朽化、公共サービスの低下（学校、病院の閉鎖）という深刻な影響が予想されるとしているが、今、まさに、仙北市が直面している問題である。市長始め職員の皆さんがこうならないために今頑張っていると思うが、受け入れることも、致し方がないことである。それらを受け入れたうえで、市長は10年先の仙北市をどのような「まち」にしたいのか、明るい展望があれば伺う。